

第3章 歴史的・文化的環境の保全

第1節 歴史的・文化的環境の保全

1 現状と課題

京都は千有余年の永きにわたり都が置かれた地域であり、多くの歴史的・文化的遺産が今に伝えられています。特に、日本の文化財の多くが京都に集中し、30年4月1日現在、府内にある国宝は233件と全国で2番目となっています。国指定の重要文化財も2,180件と全国で2番目に多く、とりわけ建造物が299件と全国で最も多く指定されているほか、史跡、名勝、天然記念物としての指定も全国有数を誇っています。なお、府指定・登録等の文化財も、30年4月1日現在、建造物208件、美術工芸品298件、無形文化財10件、民俗文化財105件、史跡・名勝・天然記念物64件、文化財環境保全地区68件、選定保存技術2件及び文化的景観10件の計765件を数えます。29年度には、近年頻発する災害からの早期保護を図るため、将来、国や府の指定等になる可能性のある文化財を暫定的に登録する「暫定登録文化財」の制度を京都府独自に創設し、文化財保護の裾野を広げました。30年4月1日現在、建造物548件、美術工芸品397件、有形民俗文化財45件、史跡・名勝26件の計1,016件を数えます。さらに、これら指定文化財等のほか、古墳や都城・寺院跡等18,000件余りの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が存在します。

また、地域の自然景観と密接に結び付いた歴史的風土を作り出している伝統的建造物群やまちなみ、史跡・名勝・天然記念物、地域の文化と密接に結び付いた民俗芸能や風俗・慣習、生活と密接に結び付いた伝統産業や伝統工芸等は、京都の環境を形づくる重要な要素であり、京都の貴重な財産として、生活環境や自然環境と一体的に保全し、より豊かなものとして将来に伝えていくべきものであるといえます。

さらに、京都の人々が長い年月をかけて育み受け継いできた、自然を無理なく生活に取り入れる習慣、ものを大切に作る習慣等の生活文化を改めて見直し、その継承と活用、振興を図っていくことも必要です。

2 歴史的風土の保全

(1) 自然と調和した建造物群やまちなみの保存

優れた自然や環境と一体をなして歴史的風致を形成している歴史的・伝統的な建造物群を保存するために、府では市町村が実施する「重要伝統的建造物群保存地区保存事業」の取組に対し、支援しています。

(2) 歴史と一体となった自然環境の保全と管理

京都の歴史は、その四季折々の自然や美しい景観等を背景として育まれてきたものであり、これらの文化的環境を守りながらより豊かなものとして将来に伝えていかなければなりません。

府では、文化遺産と一体となって歴史的風土を形成し、文化的に高い価値を持つ自然環境を、府民の財産として未来に継承するため、「府環境を守り育てる条例」に基づき歴史的な自然環境保全地域に指定しています。これまで10地域297.83haを指定し、保全地域を管理する上で必要な案内板・標識類等を設置して来訪者への周知徹底を図るとともに、監視員を配置し、監視・指導を行い適正な保全に努めています。

(3) 豊かな歴史と自然のふれあいの場の創出

歴史的な自然環境保全地域を府民と自然とのふれあいの場として活用するため、自然解説板や休憩施設、散策路の整備を行うほか、自然観察会等を開催しています。

(4) 「府文化財保護条例」による適切な保存

優れた歴史的遺産と貴重な自然環境が一体となり、文化的にも学術的にも高い価値を持つ歴史的風土・建造物群やまちなみを保存するため、府では「府文化財保護条例」に基づき、文化財の指定・登録、文化財をその環境と併せて保存するために文化財環境保全地区の決定や、文化財を保存していくために欠かせない技術である選定保存技術及び風土に根ざして営まれてきた文化的景観の選定を行っています。

29年度には、新たに1,046件の文化財の指定等を行いました。

表 3-18 新たな文化財指定等の内容 (30年 4月 1日)

| 番号 | 区分 | 区別 | 名称 | 年代 | 所在地 | 所有者 | |
|-----|-------------------|---------------|----------------------------------|--|-------|--------|-----------------|
| ① | 建造物 | 指定 | 清瀧宮 本殿 | 享保9年(1724) | 宇治市 | 清瀧宮 | |
| ② | | 指定 | 清瀧宮 本殿 | 元禄9年(1696) | 宇治市 | 清瀧宮 | |
| ③ | | 指定 | 宇治神社 末社春日社本殿 | 16世紀後期 | 宇治市 | 宇治神社 | |
| ④ | | 指定 | 岡田鴨神社 本殿及び摂社天満宮本殿 末社金刀比羅神社本殿 | 本殿: 天明6年(1786)、文化5年(1808)移築 摂社天満宮本殿: 文政9年(1826)、弘化4年(1847)移築 末社金刀比羅神社本殿: 17世紀後期 | 木津川市 | 岡田鴨神社 | |
| ⑤ | | 指定 | 天王神社 本殿 | 17世紀前期 | 木津川市 | 天王神社 | |
| ⑥ | | 指定 | 宮垣神社 本殿 | 寛永2年(1625) | 亀岡市 | 宮垣神社 | |
| ⑦ | | 指定 | 千手寺 開基堂(旧観音堂) | 寛永15年(1638) | 亀岡市 | 千手寺 | |
| ⑧ | | 指定 | 教傳寺 観音堂 | 寛延4年(1751) | 南丹市 | 教傳寺 | |
| 小 計 | | 8件 | | | | | |
| ⑨ | 絵画 | 指定 | 絹本着色南浦紹明像 徳治二年初冬の自賛がある | 鎌倉時代 | 京田辺市 | 酬恩庵 | |
| ⑩ | | 指定 | 絹本着色一休宗純像 自賛がある | 鎌倉時代 | 京田辺市 | 酬恩庵 | |
| ⑪ | | 指定 | 絹本着色一休宗純像(朱太刀像) 自賛がある | 室町時代 | 京田辺市 | 酬恩庵 | |
| ⑫ | 彫刻 | 指定 | 木造阿弥陀如来立像 | 鎌倉時代 | 八幡市 | 正法寺 | |
| ⑬ | 工芸品 | 指定 | 九条袈裟 春屋妙葩所用 | 南宋～元時代 | 京都市 | 曇華院 | |
| ⑭ | 書跡・典籍 | 指定 | 法華経 細川高国筆 大永五年六月日沙弥道永の書写奥書がある | 室町時代 | 綾部市 | 安国寺 | |
| ⑮ | 古文書 | 指定 | 北野宮再興勸進状 天文五年二月勸進沙門堯覚の奥書がある | 室町時代 | 宮津市 | 個人 | |
| ⑯ | 美術工芸品 | 指定 | 物集女車塚古墳出土品 | 古墳時代 | 向日市 | 向日市 | |
| ⑰ | | 指定 | 山崎廃寺出土品 | 飛鳥～平安時代 | 大山崎町 | 大山崎町 | |
| ⑱ | | 指定 | 石清水八幡宮境内出土品 | 江戸時代 | 八幡市 | 石清水八幡宮 | |
| ⑲ | | 指定 | 井手寺跡出土瓦 | 奈良時代 | 井手町 | 井手町 | |
| ⑳ | | 指定 | 埴輪(上人ヶ平古墳群・上人ヶ平埴輪窯跡群出土) | 古墳時代 | 木津川市 | 木津川市 | |
| ㉑ | | 指定 | 草創期縄文土器深鉢(武者ヶ谷遺跡出土) | 縄文時代 | 福知山市 | 福知山市 | |
| ㉒ | | 指定 | 高田山経塚出土品 | 鎌倉時代 (青白磁:宋代) | 福知山市 | 福知山市 | |
| ㉓ | | 指定 | 広口壺及び貝製品(志高遺跡出土) | 弥生時代 | 舞鶴市 | 舞鶴市 | |
| ㉔ | | 指定 | 成相寺旧境内出土品 | 室町時代 (青白磁:宋代) | 宮津市 | 成相寺 | |
| ㉕ | | 指定 | 波路古墳出土品 | 古墳時代 | 宮津市 | 宮津市 | |
| ㉖ | 指定 | 左坂経塚出土品 | 平安～鎌倉時代 (青白磁:宋代 銅銭:唐～宋代) | 京丹後市 | 京丹後市 | | |
| 小 計 | | 18件 | | | | | |
| ㉗ | 有形民俗文化財 | 指定 | 丹波・丹後の製紙用具及び製品 | 明治～昭和時代 | 京都市 | 京都府 | |
| ㉘ | 無形民俗文化財 (風俗習慣) | 指定 | 湯屋谷の灯笼行事 | - | 宇治田原町 | 湯屋谷区 | |
| 小 計 | | 2件 | | | | | |
| ㉙ | 記念物 | 史跡 | 指定 | 牧正一古墳 | - | 福知山市 | 牧生産森林組合 吉備神社 |
| ㉚ | | 天然記念物 及び名勝 | 指定 | 立岩 | - | 京丹後市 | 国 |
| 小 計 | | 2件 | | | | | |
| 合 計 | | 30件 | | | | | |

表 3-19 暫定登録文化財の内容（30年 4 月 1 日現在）

| 有形文化財 | | | | | | | 有形 民俗 文化財 | 記念物 | | 計 |
|-------|-------|----|-------|-----|------|------|-----------------|-----|----|------|
| 建造物 | 美術工芸品 | | | | | | | 史跡 | 名勝 | |
| | 絵画 | 彫刻 | 書跡・典籍 | 古文書 | 考古資料 | 歴史資料 | | | | |
| 548 | 167 | 48 | 20 | 43 | 108 | 11 | 45 | 24 | 2 | 1016 |

表 3-20 府指定・登録・暫定登録等文化財件数一覧（30年 4 月 1 日現在）

| 種別 | 有形文化財 | | | | | | | | | | | | | | 無形 文化財 | 民俗文化財 | | | | 記念物 | | | | | | 文化財 環境保全 地区 | 選定 保存技術 | 文化 的景観 | 暫定 登録 文化財 | 合計 | | | | | | | | | |
|----|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|--------|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|-----------------------|---|----------------|--------|------------------|--------|------------------|--------|--------|--------|-------------------|------------|-----------|-----------------|----|--------|--------|-----|-----|----|---|----|------|------|
| | 美術工芸品 | | | | | | | | | | 有 形 | 無 形 | 史 跡 | 名 勝 | | 天 然 記 念 物 | 天 然 記 念 物 及 び 名 勝 | 指定 登録 小計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 建 造 物 | | 絵 画 | | 彫 刻 | | 工 芸 品 | | 書 跡 典 籍 | | | | | | | | | 古 文 書 | | 考 古 資 料 | | 歴 史 資 料 | | 小 計 | | | | | | | 指 定 | 登 録 | | | | | | | |
| | 指 定 | 登 録 | 指 定 | 登 録 | 指 定 | 登 録 | 指 定 | 登 録 | 指 定 | 登 録 | | | | | | | | 指 定 | 登 録 | 指 定 | 登 録 | 指 定 | 登 録 | 指 定 | 登 録 | | | | | | 指 定 | 登 録 | | | | | | | |
| 件数 | 122 | 86 | 65 | 8 | 50 | 9 | 42 | 9 | 15 | 1 | 42 | 8 | 33 | 1 | 13 | 2 | 260 | 38 | 10 | 0 | 3 | 12 | 20 | 70 | 22 | 0 | 19 | 1 | 15 | 6 | 1 | 0 | 472 | 213 | 68 | 2 | 10 | 1016 | 1781 |
| | 208 | | 73 | | 59 | | 51 | | 16 | | 50 | | 34 | | 15 | | 298 | | 10 | | 15 | | 90 | | 22 | | 20 | | 21 | | 1 | | 685 | | | | | | |

また、文化財の保護を図るため、府の指定登録等の文化財について、所有者が行う修理・保存事業に必要な経費の一部を補助し、必要に応じて保護・活用に必要な指導を行っています。

表 3-21 事業別補助事業件数（29年度）

| 区 分 | 件 数 |
|-----------------|-----|
| 建造物保存修理事業 | 40 |
| 建造物防災施設事業 | 8 |
| 美術工芸品保存修理事業 | 11 |
| 美術工芸品防災施設事業 | 1 |
| 史跡名勝天然記念物保存修理事業 | 6 |
| 文化的景観保存修景事業 | 1 |
| 文化財環境保全地区修理事業 | 2 |
| 計 | 69 |

3 地域文化の保存・継承

(1) 歴史的景観の保全

京都独自の歴史的風土・景観等の保全、民俗芸能や風俗・慣習等の伝統文化の保存・継承、さらに地域固有の生活文化を活かす文化活動の機会や文化活動拠点の充実を図るため各種事業を展開しています。

(2) 伝統文化の保存・継承

府内各地に伝えられる民俗芸能や風俗・慣習等の伝統文化を保存・継承するとともに、現代社会の中で新たな関わりを見つけ、次世代に伝える環境づくりを進めています。

(3) 新たな地域文化の創造推進

既存の教育・研究機関等との連携により新たな文化・芸術を生み出していくための基盤づくりを進め、新たな地域文化の創造を推進しています。

(4) 文化交流の促進

既存の文化施設を活用して、府民と芸術家等との交流や全国的・国際的な文化交流等の多様な取組を促進しています。

(5) 森林文化の保全

豊かな森を育てる府民税活用事業の一環として、2017年度に「京の森林文化を守り育てる支援事業」を創設。地域の人々に親しまれ、地域の文化と深く結び付いて大切に守られてきた社寺の森や文化・伝説の森、伝統行事・伝統産業を支えてきた森の保全、地域のシンボルとなっている名木古木等の保全など、地域住民等の活動を支援し、京の森林文化を次代に引き継いでいくための取組を推進しています。

4 生活文化の継承・振興

(1) 地域固有の生活文化の再評価及び継承・活用・振興

京都の歴史や自然と深く関わりながら、今日まで引き継がれてきた地域固有の生活文化を再評価して、継承・活用・振興を図る仕組みづくりを進めています。

府では、農山漁村地域で活躍される経験豊かな高齢者の方々が有する農業・林業・水産業に関する生産・生活技能の保存と次の世代への伝承を目的に、その技能を「農山漁村伝承技能登録・認定制度」により登録するとともに、登録されたものの中から、極めて優秀であり、将来にわたり伝承すべきと認められる技能保持者を「農の匠」・「山の匠」・「海の匠」として認定しています。これまで728名について技能の登録を行い、うち110名を「京都府農・山・海の匠」として認定しました。また、これらの方々が生涯現役として、小・中学校における体験学習や地域文化活動の場で広く活躍し、地域で後継者を育て技能を伝承する活動を支援しています。

このほか、「府食育推進計画」（18年度策定、22年度・27年度改定）に基づき、五感を使った体験型食育、食文化の継承を進めています。

また、学校や病院、福祉施設等の給食への地元農産物の利用促進等を通じて食文化や地元農産物を活かした食生活への理解を深める取組を進めています。

(2) 生活文化活動の支援

文化活動拠点の機能の充実を図り、府民・企業・行政等の連携を円滑にして、様々な生活文化活動が展開されるよう支援しています。

(3) 伝統産業・伝統工芸等の振興

我が国の貴重な財産である伝統産業、伝統工芸等の文化的・技術的価値を次世代に継承していくための取組を進めるとともに、21世紀のライフスタイルに応じた生活文化創造産業として新たな発展が図られるよう支援しています。